



計算方法

分子	HbA1c (NGSP)の最終値が7.0未満の外来患者数
分母	糖尿病の薬物治療を施行されている外来患者数 (過去1年以内に糖尿病治療薬が外来合計90日以上処方されている患者)
除外	運動療法または食事療法だけの患者

指標の解説

・HbA1c (ヘモグロビンA1c) とは、糖尿病の診断にも用いられている検査で過去1～2か月間の血糖値のコントロール状態が分かります (正常値は6.2%未満)。糖尿病による合併症頻度はHbA1cの改善度に比例しており、合併症を予防するために、HbA1c (NGSP) を7.0%未満に維持することが推奨されています。

したがって、HbA1c(NGSP)が7.0%未満にコントロールされている患者さんの割合を調べることは、糖尿病診療の質を判断するにふさわしい指標であると考えられます。妊娠中の患者さん、低血糖を感知できない糖尿病自律神経症を合併している患者さん、認知症があるため血糖は高めにコントロールしたほうが安全である患者さんなど、すべての患者さんがこの指標の数値を達成すべきものではありません。

結果・考察

・平成27年度の糖尿病の薬物治療を施行している患者数は1,993人で、前年からやや減少し、HbA1c (NGSP)が7.0%未満にコントロールされている比率は0.5ポイント下がりました。

・今後も継続して、血糖コントロールが不良などの患者さんに対し、外来診療や教育入院などを通じて血糖コントロールの改善をはかり、「かかりつけ医」と連携しながら診療を行ってまいります。